



天王寺商業といえは非常に品格のある学校で、関西の学習院とさえいう人もあつたくらいでした。下河内先生は日本の商業学校では代表的な校長先生でした。

第一回全国大会は昭和六年の暮でしたが、優勝旗はまだ作っていませんでした。翌年、年が明けてから清浦伯爵にお願いしたので、出来てから天王寺商業まで持つて行つてお渡ししました。記念に学校の正面玄関で下河内先生、教頭山中先生それに羽間さんと私と四人で写真をとつたのを今も保存しています。

伊藤淳巳さんは一年生の夏休みに上級生から初めて速記を習つた人でした。私が行つて見るとアイウエオの基本文字を一分間に八回書くので驚き、「日本一」といったのでした。二年のとき全国大会に参加したのですが、惜しくも二位になっていました。優勝する筈だったので二位になってしまった。それは私が競技問題で「何と何とを」と書くべきところを字数の関係で「と」を取り、「何と何を」としていたのでした。それを伊藤さんがこれは「何と何とを」とあるべきだと思つて「と」を書いて答案を出していたのです。そのため原文と違つていたり誤りに取られて、惜しくも二位になったのでした。この大会の後で開いた茶話会のとき、自己紹介で伊藤さんは、私が私費を投じてこういう大会を開いているということをいっていましたが、まだ二年生であるのにこういうことまで気がつくよくなる学生でした。

伊藤さんは卒業後、社会人になつて就職することになつていたので。私はこういうよくなる学生が